

奥州遺産

No.40

ときを越え
受け継がれるもの

止止井神社跡（唐傘松）

胆沢区南都田字清水下

南都田中学校から西へ約200㍍、国道397号沿いに大きくせり出す見事な松の木が目を引く。古くは、止止井神社として天湯河柝命が祀られ、延喜式内社の胆沢郡七座のうちのひとつとされていた。今では「唐傘松の地」と呼ばれ、地域住民に親しまれている。奈良時代の集落跡とされる二本木遺跡地内に、止止井神社跡はある。この遺跡から畿内や関東とのつながりを思わせる土師器が出土し、その当時の交流を物語る。

止止井神社は、この地から1830年に中畑村（現・前沢区古城）に遷座。その社殿裏には「とゝゐの神社」と記された社名碑が安置され、南都田から移されたことを今に伝える。

冬本番を迎えるこの季節、一面の雪景色に凍と立つ唐傘松。その素晴らしい枝ぶりは、その昔、地域住民に崇拜されたこの地を守り続ける。



1



2

1 国道397号に大きくせり出す「唐傘松」 2 土地改良碑のほか江戸時代の年代が記された石碑が所狭しと建ち並ぶ

広告